

2011 年 10 月 29 日～10 月 30 日

那須岳

M3 久本 晃義

【参加メンバー】

M3 石出・M1 荒川・M0 田中・久本

【コースタイム】

10 月 29 日(土) 大丸温泉バス停 10:10～休暇村分岐 10:35～13:10 茶臼岳山頂 14:10～14:30 峰の茶屋跡
避難小屋 14:35～15:05 沼原分岐 15:10～15:30 三斗小屋温泉 宿泊

30 日(日) 三斗小屋温泉 07:05～大峠 08:35～10:15 三本槍岳 10:20～11:00 北温泉分岐 11:05～12:05 朝
日岳山頂 12:10～12:50 峰の茶屋跡避難小屋 13:00～13:45 山麓バス停

【本文】

晩秋の紅葉と秘湯である三斗小屋温泉を目指して、10 月 29・30 日の 2 日間、那須連峰をめぐるコースを歩いた。上野駅の東北本線ホームに 6 時前に集合し、6 時 9 分の宇都宮行きに乗る。段々明るくなっていき、少し眠ったりしゃべっているうちに宇都宮に到着、乗り換えてさらに北上し、那須塩原駅に 8 時 50 分に到着した。ここからバスに乗り、登山口のある大丸温泉バス停まで向かう。非常に良い天気で、車内から那須高原、その先の山々が一望でき、景観に期待が膨らむ。少々酔いながらも、定刻通り大丸温泉バス停に到着したバスを降り、準備の後、石出さんを先頭に歩き出した。

スキー場を横切ってからしばらく木々の間を歩くが、殆ど葉が落ちている中とところどころきれいに紅葉したものが残っており、目を楽しませてくれる。途中、飯森温泉跡にて休憩をとる。1940 年までは温泉宿があったそうだが、今では苔むした石垣と、銘飯一枚がせせらぎ（全く暖かくない）のそばに残るのみ。本当に温泉があったのかと疑ってしまった。

少々の休憩の後出発して暫くすると、樹林帯を抜け強い日差しと共に那須岳が姿を見せた。溶岩ドームの特徴的な山容で、昭和山を思い起こさせる。登山道周囲にはところどころに白骨化した木の幹が残っており、過去の噴火の爪痕が確認できる。山頂を左手に見ながら裾を巻くようにしてロープウェイの山頂駅付近まで歩き、ロープウェイで来た観光客(?) たちに混ざって山頂までのガレ場斜面を登る。山頂には 1 時ごろ到着しここでお昼とする。

気持ち良い晴天で 360 度展望は最高であった。ごったがえしていたが、鳥居と祠の前で記念撮影。所々から蒸気と火山ガスを噴出しており、風向きによっては硫黄のにおいが鼻についた。

十分な休憩の後、ゆっくりと峰の茶屋方面に降りる。向かいには荒々しい山容の朝日岳が見える。峰の茶屋から三斗小屋温泉方面に進むと、一気に人気がなくなる。前を行く 10 人弱のパーティについていき、樹林帯に入って、まだつかないのかな、と思っていたら分岐(沼原分岐)に到着、看板でまもなく宿とわかり内心ほっとする。そこからさらにしばらく歩いて、本日の宿、三斗小屋温泉に 3 時半に到着した。



三斗小屋温泉は現在、2 軒が営業しており、今回宿泊するのは大黒屋である。受付を済ませ、別館にある 8 畳部屋で一服。今回は素泊まりのため、暗くなる前に夕食の準備をする。部屋は火気厳禁のため、玄関の軒先にカセットコンロを置き、キムチ鍋を作って食べる。また、温泉があるということもあって広くはないが、一日歩いて疲れた体には非常に快適な湯であった。少し酒も入れながらのんびり談笑し、備え付けの布団を敷いて就寝。

2011年10月29日～10月30日

2日目は予定より遅く起きたので、スパゲッティの朝飯と片づけを早めに済ませて、7時に出発した。晩秋の山の朝は寒いが、歩き出すとすぐに温まる。2日目の今日は空模様があまり良くはなく、青空はほとんどのぞいていない。落ち葉に覆われた、踏み跡のない登山道の周りは笹が覆っていて、熊が目撃されたとの情報もあり、あまり良い気はしない。小さな沢をいくつか渡り、大峠に向かってゆるく登っていく。途中、笹やぶが背丈以上に伸びている個所があり、少々気持ちわるい。熊鈴を鳴らしながら歩く。宿を出てからここまで、全く他の登山客とは出会わなかった。大峠で少々休憩し、右に折れて三本槍方面へ。一本の線になって見える登山道を登って行き、三本槍岳山頂に10時15分に到着した。山頂は平坦で松が所々に生えていた。あまり山頂らしくはない（しかし今回の山行ではここが最高地点である）が、これから向かう朝日岳や、周囲が見渡せる。小休憩の後、朝日岳に向けて出発した。

あいかわらず足元があまり良くない道を下りながらしばらく歩くと、清水平という湿地帯に出た。ボロボロの案内図によれば、ここは無名峰と無名峰の間にある平地で、一部砂地になっており雨が多い季節には水がわき出る湿地となっているそう。木道が渡されていて、それを通る。確かに、所々水がたまっていた。木道の後には木の階段で尾根を上って行き、昨

日登った茶臼岳と、そこから朝日岳への尾根道が見えるとまもなく朝日岳である。峰の茶屋方面との合流地点付近にザックをデポし、朝日岳までピストンする。山頂は切り立っており狭く、その割に人がいるので混雑していた。景観は素晴らしく、火山らしい色の崩落斜面やその先の一体の山々が圧倒的であった。切れ込んだ谷を挟んだ向かいには茶臼岳が、眼下には、昨日バスを降った大丸温泉らしき駐車場や、ロープウェイの山麓駅、峠の茶屋などが一望できた。

荒川さんのカメラで記念撮影をして、デポ地点まで戻り、ザックを回収して、峰の茶屋へ向かう。ここが今回の山行では一番の難所であったと思われる。切り立った急斜面をトラバースしていくが、しっかりした鎖がついており、安心できる。また、やせた尾根を渡り、峰の茶屋へむかう。

峰の茶屋には12時50分ごろに到着し、少し休憩する。風の通り道で強風注意、とある看板の通り、



風がすこし出ていた。峠の茶屋方面に降り始める



が、ここからは一般の観光客も多く、道が整備されていることもあり速足で下る。途中、雨が降ってきたのでペースを上げ、道が舗装されて直にふもとのロープウェイ山麓駅へ到着したのは14時前であった。結局、最後の数十分は弱い雨に濡れてしまったが、ここで帰りの黒磯駅行きのバスに乗り、黒磯駅から東北本線で帰京となった。

今回の山行では最後に少し雨が降ってしまったことが残念であったが、一日目を中心に景観が素晴らしく、また、穂高の様な（という言いすぎだが）岩場のピーク、そして火山特有の地形を気軽に楽しめたこと、そして秘湯を訪れることが出来たことなど、大変充実した良い山行であった。紅葉のシーズンからは少し外れていたのですが、また紅葉が一番美しい時期に訪れることができればいい。最後に、体力も技術も未熟な私を2日間にサポートしてくれたお三方（特に石出先輩、荒川先謝意を表して山行報告を締めさせて頂こうと思う。



たって
輩) に

